

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500024		
法人名	医療法人社団田口会		
事業所名	グループホーム コアラII		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日	平成30年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成30年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心して生活できる充実した設備(プラズマクラスターイオン・ジェットパーフェクター・スプリンクラー・発電機3台・イルミネーション・防犯カメラ4台・非常食など)が整っている。  
定期的な次亜塩素酸消毒によりウイルス感染防止に努めている。  
季節ごとの行事に合わせ利用者様と外出(初詣、お花見など)できる機会を設けており、敬老会やクリスマス会にご家族様や地域の方を招き特別な日を大切な人と一緒に過ごせるよう努めている。  
車椅子での通院、ご家族様との外出時などに移動手段の確保が困難な場合、職員が送迎を行っている。  
消防立ち合いの避難訓練に加え、毎月1回自主避難訓練を行い、火災以外の災害も想定し訓練を行うことであらゆる緊急時にも備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が室内を歩いている様子や食事の始まり、終わり方、また、時間の過ごし方(新聞を読んでいる、テレビを観ている等)に制約がなく自由さが感じられる。居室も本人の希望に沿って畳敷きにする等、利用者にとっての居心地の良さ、使いやすさ、過ごしやすさを考えた工夫と配慮があり、利用者本位の生活の場となることを目指した取り組みをしている。また、法人によるAED、防犯カメラ、スプリンクラー、発電機等、安心安全の為に設備が充実している上に、火災、災害、侵入者があった場合等を想定した自主訓練が毎月行われ、日頃から緊急時に対する熱心な取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信頼、安心、友愛の理念に基づき、職員全員で年間目標、毎月の目標を作成し、その目標のもと、日々業務に励んでいる。	理念、年間目標を支援にどう活かし、反映させていくかを念頭に職員間で話し合い、意識して業務に取り組み、利用者と職員が互いに笑顔で過ごせる日常の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア様の受け入れ、散歩、外出など、利用者様が楽しめる機会を増やす努力をしている。又、施設の様子や活動内容を新聞にして行政センターに届けている。	地域ボランティアによる演奏、合唱、踊り等の慰問交流が盛んで、利用者の楽しみになっている。事業所の様子を伝える新聞を作成し、行政センターを通じて地域から理解を得る取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご家族様や民生委員、区長、市の担当者や地域代表の方々に参加して頂き、研修や勉強会の報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子を報告し、日々の生活の写真を回覧して頂いている。意見や要望を受けて、サービス向上に活かすよう努めています。又、議事録は毎回、ご家族様と市役所にお渡ししている。	隔月毎に利用者、家族、市担当者、区長、地域代表が出席する。利用者状況、行事、研修報告等に基づいて意見交換をし、サービス向上に活かしている。家族に開催日時を知らせる掲示をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政用に施設新聞を作成し、一人でも多くの地域の方に見て頂けるように努めている。市役所に空室状況を報告、パンフレットを置かせて頂いている。	管理者が日常的な報告をし、会議議事録も届けている。市主催の研修会に出席し情報を得ている。また、行政センターの協力で慰問の紹介を受ける等積極的な協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠しない事を目指していますが、安全確保の為にご家族様に説明、同意を頂き、必要な時間だけ玄関の施錠を行っている。薬に頼らず不安や孤独を少しでも緩和できるよう取り組んでいる。	夜間のみ施錠し、昼は開錠している。身体拘束(四点柵やミトン等)のないケアを目指し、特にスピーチロックについては利用者を尊重する職員間で注意し合っ	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が利用者様の状態を把握し、日々の生活の中で異常や身体の変化、言葉の暴力がないかを話し合い、気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、制度について学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、及びご家族様に対し、詳しく説明を行っている。又、疑問点があればその都度説明し理解を得れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一回、満足度調査を行い、ご家族様から評価、ご要望を頂ける機会を設けている。利用者様、ご家族様からご意見、ご要望があった際には迅速に対応させて頂いている。	半年毎に家族に対して満足度調査を行い、サービス評価を受けている。集計結果は家族にも伝え、ケアの向上に活かしている。また、利用者には日頃から生活上の問いかけをするよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を開き、代表者、及び管理者出席のもと、職員一人一人が意見を出し合える場を設けている。又、職員が意見を出しやすい雰囲気作りもしている。	月1回の職員会議で担当する系の報告や提案等について意見を出し合っている。職員の在り方も環境の一つになることを念頭に、自由な発言を重視し、話しやすく、働きやすい雰囲気作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や勤務変更など、協力し合い、お互いが思いやりをもって働ける職場作りを努めている。代表者が現場に来る機会も多く、利用者様や職員の現状把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修や講義には職員が平等に参加できるよう配慮している。参加後は、報告書を作成、全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などを通じて、他事業所の職員との交流を深め、サービスの質の向上を図る取り組みをしている。いつでも施設見学を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できる場所と感じて頂けるように、気を配り、話しを傾聴し、信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、ご家族様のお話を傾聴し、悩んでいる事、不安があれば少しでも緩和できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様とよく話し合い、他サービスの利用も視野に入れ、希望に添える支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者様と一緒に家事を行い、共に生活を支える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に、ご家族様との時間が十分過ごせるよう心掛け、ホームでの様子をお伝えしながら必要な時には、家族としての支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の神社にお参りに行ったり、市内をドライブしたり、親戚との集まりに参加できるよう支援している。地域で活動しているボランティアの方に慰問をお願いしている。	日常的に家族や友人の面会があり、親戚の集まりに職員が付き添うこともある。また、自宅にいる夫に会う為に送迎をしたり、書道、俳句、編物や畑仕事等長年やってきたことの継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを把握し、利用者様同士が上手く関わり合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したご家族様に今後も、何か介護や介護保険制度利用に関してお困りのことがあれば相談して構わない事をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に関係機関よりご本人の情報をアセスメントし、ご本人の暮らし方の希望を抽出し、出来るだけホームに入居後もかなえられるよう心掛けている。ご本人の希望やご家族様の希望はその都度お聞きしている。	家族や利用者がどういった生活を望んでいるのかを日頃の会話から知り、職員も要望に応える為の提案をしている。職員間では介護プランや申し送り、会議時に利用者の意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は入居前にご家族様、ご本人、関係機関から情報収集し、ホームでの生活で取り入れられる所は取り入れている。ご本人の好きな本や衣類などを持参して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りで現状の把握に努め、変化あった際はケアマネに報告、相談があり職員全員で検討しケアの工夫を行っている。マイナス面だけでなくプラス面も情報共有するよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回アセスメントの見直し、プラン更新、半年に一回のサービス担当者会議を行って、ご家族様やご本人よりご意見、ご要望を頂き、ケアプランに反映している。	月1回モニタリングをし、3ヵ月毎に介護プランの見直しをしている。職員は日常的にプランに沿ったケアができていないか確認し、意見や提案を出し合い、その都度サービス内容の変更をしている。	日常会話に見られる利用者の具体的な言葉を盛り込む等、その人らしい個別性のある介護プランを作成し、笑顔につなげてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録をケアマネが必要な部分を抽出し、まとめ、ケアプランの見直しをしている。又、月に一度の会議の際に一人一人のケアの内容を話し合い、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時でニーズには対応している。買い物の支援や移動手段の確保が困難な方に送迎の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度は地域で活動している様々なボランティアの方に来所して頂き、鑑賞するだけでなく、参加出来る活動や利用者様とボランティアの方とのふれあいの場面も設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も出来る限りかかりつけの病院を継続して受診している。ご家族様が受診対応される時は職員の作成した受診送り書で、利用者様の状態、体調の変化を主治医に伝えられるようにしている。	かかりつけ医か協力医かの選択は入居時に説明しているが、状況によってはかかりつけ医を継続している。定期的に訪問診療を受け、高齢化がみられる家族に代わって受診支援にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に状態の変化があった場合、看護職がいいため、速やかにかかりつけの病院に受診、もしくは医師、看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成し利用者様の情報提供をしている。利用者様の入院中は毎日面会に訪れ、利用者様の状態を看護師に伺い介護記録に残し、全職員が情報を把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族様に事業所が対応し得る最大のケアについて説明させて頂いている。その上で今後利用者様の状態が重度化した場合の対応の希望を確認し、最良の支援が出来るよう努めている。	看取りについては入居時に説明している。医療的処置が必要でない段階でできることをし、希望があれば協力医に依頼し看取り支援をする。終末期については勉強会にも参加し支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度の職員会議では勉強会の時間を設け、急変時の対応など様々な勉強が出来るようにしている。定期的ではないが、全職員が各種研修に参加し、その内容を全職員が共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一回様々な災害を想定しての自主避難訓練を行っている。年に二回消防立ち合いのもと避難訓練を実施。利用者様とご家族様、地域代表、民生委員、区長、市担当者などが参加している。	年2回消防署立会いの避難訓練を実施し、毎月、地震、侵入者等を想定した自主訓練を行っている。備蓄品として3日分の食料等を用意し、自家発電、スプリンクラー、AEDを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に、全職員が秘密保持に関する契約書を提出している。入浴や排せつなどの対応は特に会話や言葉使いに注意し、声の大きさにも注意している。	利用者のペースや今できることを大切に、利用者本位を心掛けている。声掛けや会話の際は、声の大きさ、言葉使いに配慮し、異性介助についてはその都度了解を得るよう言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する際はメニュー表の中から選んで頂いている。気兼ねなく話して頂けるような雰囲気作りをしており、入浴、外出、レクリエーションなど、ご本人の気持ちや希望を確認してから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時など利用者様の都合の良い時間に合わせて入浴して頂けるよう支援に努めている。楽しみにしているテレビの時間はさき事前に利用者様の都合をお聞きし、それに合わせ入浴時間を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、利用者様にお好みのお洋服を選んで頂いている。季節や気温にあった衣類が着用できるよう気遣いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の負担にならずできることを一緒に行い、作ること、食べることを楽しんで頂けるよう支援している。	畑の作物を収穫、下膳の手伝い等利用者が今できることを支援している。食事は手作りで利用者が好む献立や調理方法を工夫している。行事食も取り入れ、満足感を味わえる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は系列の栄養士が考えたバランスの良い物を提供させて頂いている。食事、水分摂取量を記録し把握に努めている。一人一人の状態に応じ、食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。毎晩、入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するよう努め、個々に合った下着の種類や当て方をその時の状態に応じて判断し、失敗しないように支援している。トイレの声掛けの時間帯など個々に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表により声掛け、トイレ誘導をしている。失敗を活かす取り組みをし、誘導のタイミングやパットの当て方を工夫している。自立者に対しては終了時に声掛けをし自立の継続支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給をして頂くように支援している。毎日10時のティータイムにはお好みの乳製品を提供している。DVD体操や体を使ったレクリエーションを行い楽しみながら体が動かせるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね曜日など決まっているが、体調管理を行い個々に合わせた支援を心掛けている。週に3回以上、希望があれば毎日でも入浴可能。入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらしたり、声掛けの工夫をしている。	いつでも入浴できる旨を利用者に声掛けし、個々の入浴の機会を作っている。自立者には自分でできることの継続、入浴拒否の場合は時間や担当者を変える試みをする等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望を考慮しいつでも休息がとれるよう支援している。又、日中は体操や散歩、レクリエーションなどで活動的に過ごして頂き生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬ファイルがあり、全職員が薬の内容まで把握できるようにしている。利用者様がその薬の効果を得られているか把握し職員間で情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し、その人らしい役割が持てる場を作るよう努めている。行事の参加やレクリエーションの提供など気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の体調や希望にそって、近所への散歩や庭の畑いじり、買い物など出来るよう努めている。お花見や初詣など季節が感じられるような外出が出来るよう心掛けている。ご家族様との夕食や自宅への外出などの支援もしている。	日常的な外出は利用者の希望によって庭の畑、買い物、散歩等の支援をしている。また、地域主催のイベントに参加し、外出の機会を作るようにしている。家族との夕食や外出の機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員付き添いのもとスーパーなどに出掛けご自身で買い物を楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がご家族様や知人に連絡を取りたい際、職員付き添いのもと電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングの壁には行事の写真や利用者様の作品、季節に合った飾りつけをし、季節や生活感を感じられる空間作りに努めている。	生活の場として自由に憩う雰囲気があり、窓からの景色や室内の飾りつけに季節感が感じられる。共用空間にAED、救急キット、防犯カメラのモニターがあり、安心安全への配慮が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で過ごしたい方、皆で過ごしたい方、それぞれに合わせ自由に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様とご家族様と相談し、利用者様が使い慣れた物、昔使っていた物を活用し居心地よく過ごせるような支援をしている。	畳敷きの居室もあり、利用者の希望に沿った部屋が提供されている。各居室に洗面台があり整容、清潔保持の自立に役立っている。馴染みのものが持ち込まれ、自分らしい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、利用者様の残存機能を損なわず生活が送れるよう支援している。		